

令和3年度事業報告書

ともえ学園

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行いながら、質の高いサービスを提供を行えるよう多方面にわたるさまざまな取り組みを行った。

破壊や老朽化した箇所修理、交換等を随時行った。

各部署、各係の取り組みについても基本理念、重点事項を踏まえ、次のとおり令和3年度事業を実施した。

事業

①施設入所支援事業	定員70名	内訳	男性66名	女性4名
②生活介護事業	定員70名	内訳	男性66名	女性4名
③短期入所事業	定員2名			
④日中一時支援事業	定員若干名			

基本理念

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の尊厳にふさわしい施設支援を保障し、必要なサービスを提供する。

- ①利用者の人格、生活史そして要求を尊重し、施設入居によって本人の尊厳や利益が損なわれないよう、相手の立場をよく理解する。
- ②利用者には、社会生活上の知識や文化的な刺激を受けられるよう積極的な生活の援助を怠らない。
- ③利用者の人格や行動を情緒豊かに受け止め、共感し、共に向上できる職員となる。

重点事項

- ①利用者中心の質の高いサービスを提供する個別支援計画の作成とモニタリング
個別支援会議の充実、ご家族の参加
- ②高齢化への対応と機能低下の防止、感染症予防対策
- ③強度行動障害への取り組み、強度行動障害支援者養成研修受講
- ④日中活動の充実 活動系の拡充と専従
- ⑤虐待防止に対する取り組み
- ⑥職員研修、人材育成の取り組み
- ⑦職員の健康推進、ストレスチェック、各種依存症のチェック
- ⑧建物設備、備品の保守管理、営繕及び更新、壁の修繕、厨房機器保守管理
- ⑨安全と日常の危機管理
あらゆる危機、危険を想定した環境と防災設備の整備と訓練。
労働災害を発生させないための研修と適切な作業着、作業用品の提供。
- ⑩広報活動
ホームページ、フェイスブック、ブログ等を活用したタイムリーな情報の提供。

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員 2 名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	5	5	3	3	3	3	3	4	3	2	2	4	40
受入回数	8	7	5	6	6	4	6	7	5	5	3	7	69
受入延日数	57	62	55	53	55	54	54	57	58	51	53	56	665

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
受入回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
受入延日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

④在所者状況（令和4年3月31日現在）

年 齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	0	0	0
25～30歳未満	2	1	3
30～35歳未満	1	0	1
35～40歳未満	6	0	6
40～45歳未満	6	0	6
45～50歳未満	17	0	17
50～55歳未満	15	1	16
55～60歳未満	14	2	16
60～65歳未満	5	0	5
65～70歳未満	0	0	0
計	66	4	70

在 園 年 数	男	女	計
0～1年未満	0	0	0
1～5年未満	2	1	3
5～10年未満	4	0	4
10～15年未満	4	0	4
15～20年未満	6	0	6
20～30年未満	37	2	39
30～35年未満	13	1	14
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	50	3	53
精神発達遅滞	10	0	10
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	29	1	30
5	26	3	29
4	11	0	11
3	0	0	0
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	8	5	1	3	1	2	1	1	2
女	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	7	9	3	4	1	2	8	5	1	3	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	島根県飯南町	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	70

2 トライアングルグループ

①グループ目標

利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。

ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

②まとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症の状況により、行事等が縮小されたが、午前のクラブ活動、ウォーキングは影響を受けることなく実施できた。クラブ活動は昨年が続いて枝木運びを中心に行い、利用者にも分かりやすい活動内容とした。午後からの個別活動については作品作り等楽しみにされる利用者がおられ、作品展示会では日々自分たちが制作していた作品をゆっくりと観て貰える良いひと時となった。

ご家族、利用者ともに楽しみにされていたグループレクは今年度も中止となった。また外食を伴う日帰り旅行も実施できなかった。お楽しみ外出については、利用者が買い物をする事が出来たり、職員のための買い物になるなど新型コロナウイルス感染症の状況によって変更した。また、今年度も面会外出、外泊等、利用者が楽しみにされている事が中止となったが、制限された生活も2年目に入り、利用者の方々なりにも受け入れておられた。職員は感染症を持ち込まないよう感染対策を行い、その成果もあつてか、新型コロナはもちろん、インフルエンザへの罹患者もなかった。

今後も利用者の人権を守り、安全・安心して生活が送れるよう統一した支援をおこなう。そして利用者、職員共健康に留意し、毎日を生き生きと過ごせるよう配慮する。

3 レインボーグループ

①グループ目標

言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。

体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。
安全で清潔な生活環境を提供する。
生き甲斐を持てる生活を目指す。

②まとめ

クラブ活動としては月～金曜日の午前に行った。きのこクラブは、遊歩道の枝木運びや、椎茸ホダ木の水槽浸け、上げ、椎茸菌の植菌やホダ木運びを行った。活き活きクラブは、学園周りや室内のウォーキングやYouTubeの映像を見ながらリズム体操を行った。午後からはウォーキングが中心で、山の遊歩道、学園周り、室内と分かれて歩いてもらった。

夏の暑い時期と冬の寒い時期は屋外での活動は控えた。

新型コロナウイルス感染症の流行の為、面会や外泊をする事が出来なかったり、グループレクも中止となった。行事については、日帰り旅行や喫茶店での飲食が今年度も出来なかった。

職員は、新型コロナウイルス感染症に感染しないよう感染症対策をしっかり行ったことにより、インフルエンザ罹患者も無かった。

1名の利用者が、発熱し、急性虫垂炎と診断され、医療機関へ緊急入院し手術となった。術後の状態は良好だったが数日後状態が急変し死亡された。

「綺麗な支援」をモットーに、環境、利用者の身だしなみ、職員の言葉掛けや動き等に気を付けて支援をした。

今後も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行い、一人ひとりに焦点をあてた個別対応を考え、健康に過ごしてもらえるよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

4 はなまるグループ

①グループ目標

利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重、健康で豊かな生活を支援する。

清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

②まとめ

今年度は施設内異動した職員を迎え新たな体制で臨んだ。異動職員は直ぐに業務を覚え、スムーズな業務遂行が出来た。また、6月より新任職員を迎え人数が充足したことで、利用者へ質の良いサービス提供が行えた。

午前の活動は日中活動課主導の元、前年と同様の活動を行った。会議を利用し、常に活動内容等の改善を行った。午後の活動は、ウォーキング時の姿勢を良くする為にポールを購入。現在、姿勢改善効果があったのかを検証中。11月よりボッチャを取り入れた。利用者はそれぞれに楽しみながら運動を行う事ができた。

水曜日と土曜日にグループ活動として工芸・園芸・手芸の3つのグループに分かれ、利用者の新たな一面を見つける取り組みを行った。

今年度も、手洗い、うがい、マスクの着用など予防策を講じた効果もあり、インフルエンザや感染性の胃腸炎などに罹る利用者はいなかった。今後も継続できるように感染症対策を講じていく。

グループ会議時に利用者から出た要望を取り上げて話し合うようにした。要望を話しあったことで改善されたもの、要望通りにならない難しいものがあった。

5 日中活動

①目的：活動の企画、運営を行う。

活動センター、学園周辺の清掃、環境整備を行う。

②まとめ・反省

日中活動はアルミ缶潰しと売却、古紙の売却、薪作り、椎茸の栽培、木工作業、衣類畳み、清掃作業と環境整備（枝木運び）を行った。

リサイクル棟内、及び仕分けハウス内をパーテーションで区切り分別作業の効率を上げた。

環境整備では夏季随時草刈り等を行い、遊歩道は間伐作業を進め景観に配慮し整備を進めた。昨年度同様に間伐材は薪や木端、椎茸の原木また木工作品にするなど日中活動に役立てた。

椎茸栽培や野菜作りなども継続し、乾燥椎茸や野菜は園内玄関で販売し来園者にも販売をした。

エビス草栽培用に新たにフェンス外側に畑を新設し、収穫したエビス草はお茶として販売した。

FOX販売は薪を中心に木工作品も販売を継続した。

トライアングル、レインボーはウォーキングを中心としたメニューで晴天時は原木や枝木運びをしてもらい、雨天時の室内活動の取り組みや少人数での午後の活動にも取り組んで一定の成果はあった。少人数での取り組みを増やし、個々のニーズに応じたメニュー提供を考えることが継続した課題となっている。

6 医療

①目的

バイタルサイン、症状の観察

受診判断、受診引率、入退院調整、産業医、嘱託医との連携

外傷時、病気静養時の対応

スキンケア、フットケア

口腔ケア、口腔健康管理、歯科受診

生活習慣病予防一定期健康診断、歯科健診、健康増進、介護予防の実施

肝疾患対策

難病対策

がん対策

感染症対策－新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス、ノロウイルス予防策の実施と指導、肝炎ウイルス検査の実施とワクチン接種、その他感染症対策

熱中症予防対策

自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、強度行動障害の治療と看護

医療安全、医薬品や医療機器管理及びガイドライン作成、実施、評価

②まとめ

コロナ禍の中で、感染状況に応じた必要な感染対策のマニュアルがないため、感染対策の構築を早急に行う必要がある。

今年度は、医師の指示の元、流行時期における面会、外出、外泊等は中止とし園内蔓延予防とした。必要な対策を周知徹底し、職員の園内持ち込み防止、園内クラスター発生防止へ、日々取り組んだ。

また、利用者の高齢化や生活習慣病の発症等、病院受診や入院が増加している状況

にある。今後の学園のあり方や対応を協議していく必要があると考える。

7 栄養食生活

利用者に安全な食事を提供するように衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、多彩な強化磁器食器を使用し、また温かい食べ物は温かく、冷たい食べ物は冷たくといった適温の食事提供や個々に応じた細やかな配慮のある食事作りに努めた。また彩りや盛り付け等にも配慮して提供した。

8 事務

笑顔、親切、丁寧、确实、正確を基本として、関係法令並びに、社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を遵守して日々行った。

9 防災管理

災害発生時は、速やかで適切な対応となるよう危機管理体制を充実させた。
消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を行った。
緊急時への対応能力向上を図った。
新任職員対象の防災研修会を実施した。

10 安全運転管理

交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する為の取り組みを行った。

車輛の点検、整備を実施し車輛の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意した。

トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加。

10チーム中7チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。

11 危険物取扱者

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行った。

12 運営会議

施設運営の決定機関として園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催した。

13 支援部課長会議

利用者処遇全般について協議し、運営会議に提案する。毎月1回、開催した。

14 個別支援会議

ケース担当者、グループ課長、看護課長、管理栄養士、サービス管理責任者の5名で構成、毎月中旬以降12名前後の方を対象に実施。

半年毎に各利用者の会議を設け、モニタリングとサービス内容について協議した。

急遽変更等あった場合は必要に応じ会議を追加した。

新型コロナウイルス感染症対策として、対面での会議は行わず、サイボウズを使用

したリモート会議を行った。

15 朝礼

参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。
各部署の日誌をプロジェクターからスクリーンに表示させ、担当者が発表した。
毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った

16 園内行事

一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として学園内で計画実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症染予防の為、中止や規模の縮小などした。

17 対外行事

新型コロナウイルス感染症予防の為、対外行事への参加は行わなかった。

18 外泊

新型コロナウイルス感染症予防の為、外泊は全て自粛していただいた。

19 虐待防止委員会

委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

20 危機管理委員会

委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で毎月定例の運営会議の時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

21 衛生委員会

健康障害の防止、健康の保持増進対策の検討を行った。
労働災害の原因及び再発防止対策の検討を行った。
健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項の検討を行った。

22 人権委員会

目標と具体的な事例を挙げて振り返りを毎月、グループ会議後に人権委員会会議で協議し、人権意識を高めた。

23 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案、全職員対象にサービス自己評価チェックの実施を行った。

24 健康体操クラブ

身体を動かし、楽しみながら健康維持につなげる体操を行った。

25 フラワークラブ

外部から専門の講師に来園して頂き、フラワーアレンジメントを教えていただいた。

26 書道クラブ

書道を通して、書く楽しさを知り精神の安定を図る為、職員を講師として書道の時間を設定し企画、実施した。

27 グラウンドゴルフクラブ

グラウンドゴルフを通じてスポーツをすることの楽しみを持ってもらい、体を動かすことで、機能維持及び向上を目指した。

28 地域交流

新型コロナウイルス感染症予防のために活動が出来なかった。

29 入浴

安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

30 洗濯

洗濯全般について、業務が円滑に実施できるよう取り組んだ。

31 寝具

寝具の発注、搬入の事務を行い、在庫を適切に管理し、常に清潔な寝具を提供した。

32 営繕

要修繕箇所について、迅速、丁寧に対応し、必要に応じて業者に依頼した。
生活しやすい環境を整え整理整頓を行った。

33 食堂

食堂の環境整備、清掃、備品の管理を行い、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するための企画検討を行った。

34 ともえ通信

ともえ通信の編集発行と、2021年度の事業報告書の編集発行を行った。

35 職員研修

利用者支援技術の向上と障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を学ぶための研修会を開催した。

WEB研修の講座の中から、職員に視聴して欲しい講座を選択し、その講座を紹介し意見感想を募り、係がまとめて周知した。

新任職員に対し、ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。

36 親の会

ともえ親の会の事務局を担当し、親の会活動の企画、立案、事業実施援助を行った。

37 ボランティア

新型コロナウイルス感染症予防のため、施設ボランティアの来園は中止。

38 実習

2件受け入れの予定だったがキャンセルの申し出があり実施なし。

39 あいさつ運動

笑顔を忘れず積極的にあいさつをして、接遇のレベルアップした学園を目指す為の取り組みを行った。

40 環境美化

学園全体の環境美化を整えるため、職員の環境美化に対する意識を高める、綺麗な職場環境、生活環境作りに取り組んだ。

41 掲示版

施設に届いた各方面からの広報誌や、情報、案内等を掲示し、周知した。

42 エコロジー

限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める活動を行った。施設内で実践できるエコ活動の啓発を行った。

43 見学

見学者の受け入れ調整と利用者の生活に配慮して見学の案内を行った。

44 福祉協会

広島県知的障害者福祉協会の支援スタッフ部会員を専任し、オンライン等で情報交換した。

45 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。

46 施設整備

給湯配管ラインポンプ交換工事

衣類用乾燥機修理

居室壁キッチンパネル貼付工事

排水路草刈り

活動センター屋根漏水補修工事

活動センター宿泊室空調機設置工事

活動センタープレイルームカーテン更新工事

ブラストチラー更新工事

ストレスチェック

浄化槽放流ポンプ交換工事

男性浴槽ろ過器循環ポンプ交換工事

生活棟シャワー室設置工事

非常用自家発電機設備設置工事

令和3年度 事業報告書

令和4年7月1日発行

ともえ学園（障害者支援施設）

〒728-0002 広島県三次市西河内町10250番地

電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934

E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp